日本のなかの小さいアメリカ

山﨑かれん、川村流太

日本には戦後 70 年近く経った今でも多くの米軍基地がある。敗戦によりアメリカに引き継がれた軍事基地が残っているのだ。日本の安全保障における政治的な問題、地域住民との摩擦といった問題を抱える一方で、在日米軍基地周辺では独特の文化が発展している。

東京都福生市の横田基地周辺では、1970 年代を最盛期としてアメリカ文化に感化された多くの日本人アーティストが活動を行った。その影響は現代の日本のポップカルチャーに色濃く表れている。

横田基地の脇を走る国道 16 号線沿いでは多くのアメリカ人が行き交い、店の看板は英語で表示されている。まるで小さなアメリカである。アメリカンアンティークの店、米軍放出品を扱うミリタリーショップ、古着屋、ライブハウスなどが並び、これらのお店では米ドルを使用することができる。

「米軍基地の近くに店を構える人は、考えもアメリカ的なのかもしれない」

そう語るのは、ミリタリーショップ D-GARAGE の榎本麻美さんだ。16 号沿いの店は競い合うのではなく、相互に協力し合っているそうだ。

「『みんな楽しければいいじゃん』と思っている人が多いんです」

客の探している商品の在庫が自分の店にないときは、他の店に連絡をとって案内しているという。

また広川恵さんの BIG MAMA は 1950～60 年代のアメリカンアンティークの店だ。店内には食器やアクセサリー、家具などが置かれている。

「福生に集まってくる人にはこのアメリカンアンティークのテイストに共感してくれる人が多い」

広川さんは、雑誌の取材に積極的に応じたり、ウェブサイト上で情報発信をしたりするなど、この地域を盛り上げていこうと積極的に活動している。

在日米軍基地というと日米関係の維持や安全保障など政治的な文脈から捉えられることが多い。また、沖縄住民との衝突を思い浮かべる人も多いであろう。しかし、同時に生のアメリカを吸収して生まれた独特の文化が根付いていることも興味深い。在日米軍基地ときいたとき、そういった政治的な問題だけではなく、この小さなアメリカのことも思い浮かべたい。

[編集後記]

私は生まれたときから横田基地の近くに住んでいる。飛行機の轟音に悩まされる一方で、私はその土地に根付く珍しい文化に憧れをもってきた。
在日米軍基地ときくと日頃ニュースなどで見られる政治的な問題を思い浮かべがちだが、今回はあえて文化の面にスポットをあてて考えてみた。
一英字新聞サークル部員としても多角的に物事をとらえことができるようになりたいと思う。

山崎かれん

私は元々、福生(ふっさ)という地名の読み方すら知らなかった。ただ福生ゆかりのバンドが多く、ロックンロールが盛んな地ということで興味を持った。実際に訪れると、異国情緒あふれる町並みの中で人々が盛んに交流していて素敵な街であり、人々がとても親切で現代の日本に忘れられつつある人情のようなものを感じた。次に福生を訪れるときは横田基地の友好祭に行ってみたい。

川村　流太